

\*\*\*\*\*  
蓬萊町だより  
\*\*\*\*\*

第八十二号

平成 25 年 1 月 25 日

発行 蓬萊町会

町内探訪 (8)

勝林寺のこと その三

本城康至

まえがき

本郷仏教会編「本郷の寺院」によれば、本郷には六宗派五十七の寺院があります。

この内駒本小学校の校域だけで三十二を数え、そのうちの半数十六の寺院がわが町蓬萊町にあります。

一町会域に十六ものお寺が集中していることは、前区長の煙山氏でさえ、「そんなにあるの」と言う位意外に知られていない事実なのです。

これは江戸期以降の寺の集散の結果ですから、江戸の研究で著名な鈴木理生さんの著書「江戸はこうして造られた」から、参考になるところを引用してみましよう。

家康の江戸入りまでの江戸の範囲（大体今の千代田・中央区）には、「続御府内備考」「文政寺社書上」等の史料で確認できるもの

だけで六十五寺ある。このうち約半数が太田道灌時代に起立したもので、あとの半数が北条時代のものである。

家康の江戸入り当時は、家臣団等の入府があつて一四三寺、更に急速な都市化により、江戸初期には二〇八寺を数えた。

そしてこの二〇八寺の現況は千代田区内一寺、中央区内三寺計四寺が存在するに過ぎない。

つづいて、江戸寺町の変遷について次のように説明しています。

寺が集中した場所を寺町と呼ぶこととして、家康の江戸入り以前の寺町のほとんどは、武蔵野台地に入り込んだ零細河川の谷筋だった。ところがその場所が、城郭の中心地になると、移転措置がとられ、城郭のはずれや、街のはずれの低湿地を選んで寺町が形成された。

これは天下普請に共通なことだった。さらに、明暦三年（一六五七）の大火復興計画による寺町の大移動の際も、一貫して大部分が低湿地を選んだ形で寺町が移動する。つまり、一度に遠くへは移転させなかったのが江戸の場合に特徴だった。

例外的には、駒込の一部や、谷中・小石川・牛込の一部のように、それぞれの台地の上に寺町が形成される場合もあったが、それらは明暦の大火以後のことで、江戸初期はなんといつても主な寺町は低湿地と埋立地に集中した。

もちろん徳川の菩提寺やそれに準ずる護国寺などの場合は例外であることはいうまでもない。

そして、関連する歴史資料の問題として以下の指摘をしています。

家康は少なくとも、天正十八年（一五九〇）江戸城に入城してから、慶長八年（一六〇三）將軍に就位するまでは、目前にある江戸前島を法制上徳川の自由にすることはできなかった。しかし、家康は道三堀などの工事を江戸入り直後から始め、円覚寺領前島横領といふ法制にもとる出発をした。江戸前島を除いて大都市江戸の建設は不可能だったための、止むを得ない処置だったが、彼の政治上の”建前”からすれば、たいへん苦しい行為だったといえる。

これを鋭く反映しているのが、天正一九年前後の円覚寺関係資料の欠落なのである。多くの江戸の地誌の記述上の共通的特徴は、江戸市街と江戸城がある程度出来上がった時点から書きはじめる。その最も早い時点は慶長八年の幕府開設の年の記事であり、より具体的な記述になるのは、江戸と江戸城がいちおう整備された寛永八年（一六三一）以後のことである。

くり返すが草創期の江戸の原型についての記述はほとんどない。

地図の場合も、天正一八年から寛永八年まで四十一年間の同時代作製の地図は全く発見

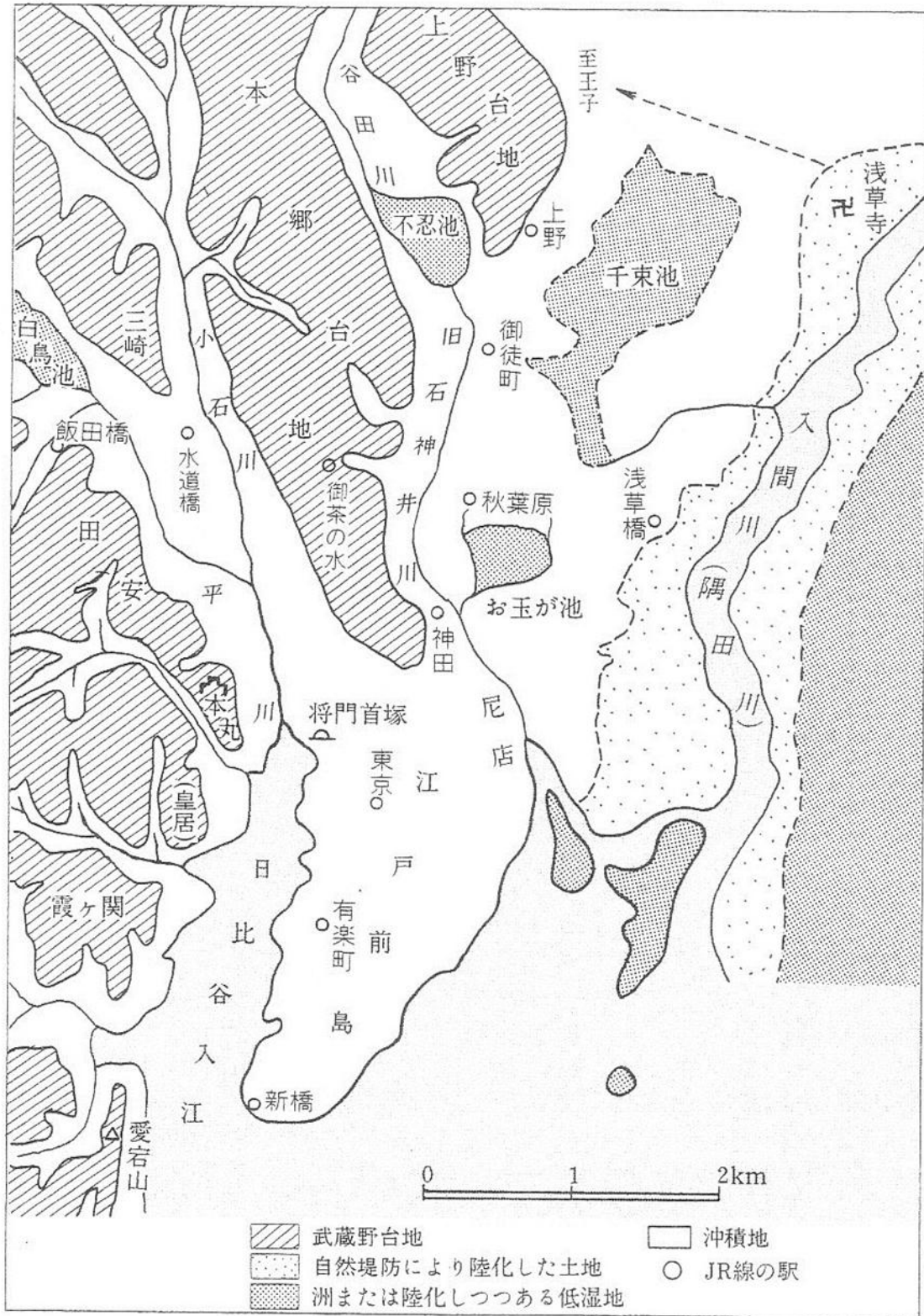


図 江戸の原型 (出典 鈴木理生) 図中お茶の水より南側の斜線部分が神田山

されていない。地誌の場合とともに、江戸前島に関する”言論統制”がいかに嚴重だったかをしのばせる。

以上のことは、わが町の歴史就中なかんずくお寺のことを知る上で大切な視点であります。勝林寺のことは、寺が具体的な歴史記述として、わが町域に最初に建てられたお寺になりますので、前町会長の最後の仕事として書き残すことにしました。

以下、素人歴史研究家の拙文はご容赦下さい。

それでは、私の「しゅうりん寺」もの語りを始めさせていただきます。

もの語りの根拠は、「萬年山勝林寺の沿革概要」平成五年とお寺の栞「萬年山勝林寺」平成七年です（蓬萊町だより第80号参照）。

お寺の栞では文政社事書上を優先し、両論併記の形で歴史の説明をされていますが、止むを得ない現ご住職のお考えだったと推察しています。また、私の自由な記述を黙認いただき感謝しています。

なお、本稿を書くに当たり、幾つかの決めごとをしました。特に、記述は数多くの文献を参考にしていますが、主題は町内探訪にありますので、個々の事像についての出典記述は省略しました。人名は沿革概要を用いること

としますが、原文引用時は原文の通りにしました。

もの語りの構成は、あとでお寺からのご批判をいただき易いよう、沿革概要に大すじをそろえました。

#### はじめに

檀家総代の方による歴史研究は、先代住職窪田久猶氏の遺言によりますが、私の想像では臨済宗の大本山妙心寺の財務部長もされた先々代窪田知膺氏（二代目蓬萊町町会長）の伝法の思いの一端が継承されたものだったと思います。

今の文京区史では勝林寺の歴史を左記のように記述してあります。

「駒込蓬萊町なる勝林寺は元和元年医師中川元故の湯島天神前に設立する所で、初め嵩呼山心宗寺と呼んだが慶安二年萬年山少林寺と改め、明暦大火後太田備中守と屋敷替えをして以て現地に移転した。中ごろ寺運甚だ振はなかつたので、享保中少林寺を勝林寺に改めたが、後安永中田沼意次の帰依を得るに及んで漸く寺運の復興を見るに至ったといふ。」と。

平成五年の時点では、千代田区史及び豊島区史でもこれと大体同様な当寺の由来の記述になっているそうです。

千代田区は国土地理院の調査をもとに神田山（前出）の形状の調査をしていますし、豊

島区も本誌第80号にみられたように勝林寺の研究をしています。このままでは、文京区の歴史をそちらに行つて教えてもらうことになりそうです。

当然町会の沿革年表でも、暦年の違いはあれ、湯島から現在地に移転した点は同じです。勝林寺の沿革概要は、明治初期の神祇官設置にともなう寺の対応から話を始めますが、後の話としましょう。

#### 勝林寺の開創―嵩呼山少林寺

弘安の役（一一八一）のあと、正安元年（一二九九）元は南宋の僧一山一寧を遣わし、国書を呈して和交を求めた。一寧は日本に止まり、乾元（二三〇二）に江戸氏の江戸館の地、武蔵国豊島郡湯島郷龜山（神田山）の南東の頂に草庵「亀庵」を構え、江戸氏・豊島氏の保護を得て、地方武士の修禪、教化に当たつた。やがて彼が上州藤岡（栃木県）に興禪寺開創のため去つた後、亀庵は南浦紹明を開山とする禅堂となり、京・鎌倉五山の禅僧が住山して、武蔵国の臨済禅の中心となった。

この開山に当たり、達磨大師の住山した崇山少林寺にあやかり、その心と呼ぶという意を込め「崇呼山少林寺」と号した。

蛇足ですが、本稿にも係わりがあるので、わが国の禅宗の始まりを添書します。

奈良・平安の頃にも禅を伝えるものはあつたが、はじめて禅宗を開いたのは栄西で、一

二〇二年京都に建仁寺を建て開山となった。これが臨済宗のはじまりで、そののち多くの宋僧が来日します。有名な元寇の時、北条時宗を支えた無学祖元や前記一山一寧もその一人で、鎌倉と京都五山が栄えました。一寧は夢窓疎石の師で、いわゆる五山文学はこの系統から発達し、また有名な画家雪舟も五山の出身です。

付記すれば、曹洞宗を開いたのは栄西の門下で学んだ道元で一二四四年に永平寺の開山となり、臨済宗が貴族的文化に傾斜したの対し、民衆の宗教として地方にひろがりました。なお、南浦紹明は現在の臨済宗諸派がすべて彼の系統に属していると云われる位の人だそうです。

#### 太田道灌による再興

道灌資長（一四三二〜八六）は町史にとつて、いや文京区・首都圏の歴史的なヒーローで、彼なしに江戸は語れません。

また、十九世紀の有名なチャレンジャー号のレポートでも新種海洋生物の採集地点を「江戸沖」と記載していた程の、地球儀上の地名でした。

江戸の名が歴史記録に現れたのは、「吾妻鏡」の中で、この地の支配者江戸太郎重長の名があると云います。重長は源頼朝のもとで、現在の千代田、台東、文京、新宿、港区一帯を領有した。江戸氏と同族関係にあった豊島

氏は、荒川、北、板橋、練馬区あたりを領有していた。このようにして、江戸氏は平安時代末期には名族として江戸館を、後の江戸城本丸あたりに持っていた。

鎌倉幕府が滅び、足利尊氏が幕府を京都に開くが、関東の地を重要視して、鎌倉に関東管領をおいた。管領には足利氏が当り、執事を上杉氏が代々務めた。しかし、管領足利持氏は自ら將軍に擬し公方と称し、執事の上杉が原因で、関東の地は、古利根川をはさんで、公方側と管領上杉側の争闘の絶えない有様となった。

この争いは、永享十二年（一四四〇）嘉吉元年（一四四一）の結城の合戦（栃木南部）で結城城が落ち、幕府・上杉軍が勝利する。

この頃から江戸氏は姿を消したとも云う。そして次の年道灌幼名鶴千代丸は、生地鎌倉の五山の学問所より帰宅、父太田道真は扇谷上杉家の家宰となる。文安三年（一四四六）鶴千代丸十四才は元服して源六郎資長と名乗る。なお、文安四年十六才元服源九郎持資と名乗るとも云うが、前者をとる。

道灌は康正元年（一四五五）相模守護代に就き扇谷上杉の家宰となるや、勢を取りもどした公方足利成氏対策のため、上杉持朝を補佐して江戸・川越・岩槻各城の着工にかかり、翌長祿元年（一四五七）築城を終えた。この頃道灌は江戸地元の一大勢力豊島氏とも要衝

本郷台地の支配のため戦っていたので、川越・岩槻の中継基地も兼ね赤羽に稲付城（現在の静勝寺はこの城址）を造っている。

道灌が江戸氏・豊島氏・葛西氏などと戦ったのは、武蔵野の東部江戸の地域を制覇するためだけではなかったと思います。彼等は平氏の流れで秩父党の一族だったこともあったわけです。

道灌が江戸氏の館跡に築いた江戸城の図面はありません。推定の素材としては、慶長五年（一六〇〇）から同八年の頃につくられたと考証されている「別本慶長江戸図」と、江戸期後期作の推定図「長祿江戸図」及び弘化三年（一八四六）の谷文晁作「道灌江戸築城の図」はあるが実像はつかめない。

しかし、道灌が鎌倉五山で臨済禅を学び、当代屈指の知識人であり文芸にも素養があったので、幅広い人脈をもち、居も定まらない戦さの間に、京・鎌倉五山の詩僧たちと交流し、残した詩板記録等から、その城域の形状が説明されている。

二十五見付からなる城郭づくりは、「道灌がかり」と云われ、根城には「静勝軒」という館を置き、東に「泊船亭」西に「含雪斎」を配した。他は省略するが、前者からは筑波山から隅田川方面を後者からは富士山と武蔵野が眺望できた。

静勝軒の静勝は「兵は静をもつて勝つ」との中国の兵書「尉繚子」によるもので、道灌

の戦の哲学であった。

道灌はこの時衰微した崇呼山少林寺を再建するため、寺の城の泊船亭を少林寺出丸とし、東の見付の要とした。含雪斎のちに「心宋寺」（山号ナシ）に改め、先の少林寺と二寺を以って「崇呼山少林寺」とした。

少林寺には中興開山として京より雪江宗深を請じ、心宋寺には雪江の弟子に当る悟溪宗頓を請じ開山とした。この両名は前出の南浦紹明の法嗣である。なお、心宋寺は心宗寺のことと愚考。

道灌のこの二寺併立が後年「しょうりん寺」史記録をまどわす遠因となりました。

思えば、絶え間のない戦を通して、幾度も本郷台地頂の草生す小径を駆け、見晴らしの良いわが町のあたりで、朝な夕なに立ち止り四方の景色を眺望したはずである。それは常に江戸を出て戦い無負と云われる兵術家が、その兵站特に馬の確保と休養を、駒込の牧に求めたはずだから。

牧の実効支配からは相当な財を得たはずである。文明元年（一四六七）の頃彼は根津神社に社殿を奉建している。この頃には既にこの地に休息の館をもっていたはずである。

彼は江戸城に長居することはなかった。

後北条氏の復興―崇呼山正林寺

さて、文明十八年（一四八六）主家上杉定正により相模の地で不慮の死を遂げ、道灌の

時代が終わる。

道灌なきあと、扇谷上杉と山内上杉の抗争が起り、関東は再び戦場となる。道灌の子資康は扇谷上杉から離反し山内上杉に従った。しかし、明応八年（一四九八）自害するところとなる。その子資高は赦免され江戸城の城代を務めるまでになった。

しかし、大永四年（一五二四）正月北条氏に寝返り、北条氏綱が上杉朝興の江戸城を攻め落城させる。ここで両上杉は滅亡し、北条氏が誕生、関東の戦国史は大きな転換点となる。

この時、江戸城少林寺は兵火にかかり焼失した。寺の戦災の程は不明で、復興の城の形状も知られていないが、後出のように、少林寺出丸の泊船亭は残った。

北条氏の保護を受けた寺は、再建されて、その寺号を改め、「崇呼山正林寺」となった。

この時の開山・開基までは筆者の調らべは進んでいない。開基は北条氏綱か？

太田資高は北条氏の厚遇をうけ城代に復し、子の康資までつづいた。ただ、康資は永禄七年（一五六四）北条氏から離反し房総里見氏に寄りその後故あって天正九年（一五八一）に自害する。その子資綱は里見氏を逃れ、常陸佐竹氏を頼り、天正十八年小田原で北条氏が滅亡後に、江戸入府の家康に仕えるところとなる。

江戸城は遂にこの時まで一国の主領が城主となることがなかった。

つづく

追記

第81号に「江戸朱引図」のことで誤記注釈を致しましたが、区役所出版物の図が誤っていて、それを引用された結果とわかりました。林さんと「本郷の寺院」の筆者にお詫びします。

### 蓬萊句壇

返すもの皆地に返し冬樹の芽 森ゆかり  
小春日や日がな撫でられおびんずる 岡田恒田  
待ち惚け枯葉にちよつとからかわれ 藤井明世  
蜜柑むく愛しき人のために剝く 平間志乃  
古セータ母の手編みの捨てがたし 塚田しずみ  
柚子湯出てうなじに淡き香の残る 池田南北



# 海蔵寺の天ぷら会

婦人部長 花岡幸子

九月三日月曜日に海蔵寺にて敬老天ぷら会が開催されました。この天ぷら会は釣友連合会の有志等が二十年位続けている恒例行事です。釣友連の方々が、朝四時に起きて木更津沖でハゼを釣ってきました。

ハゼの天ぷら、かき揚げ、野菜等からなる百人分のお弁当を釣友連の奥さん、婦人部等で手分けして作りました。



## 訃報

- 室屋良一様 64歳 向丘 2-17-14
- 島田喜久様 92歳 向丘 2-38-22
- 木村トミエ様 81歳 向丘 2-37-10
- 坂本幸子様 64歳 向丘 2-37-6
- 宇川禎二様 90歳 向丘 2-25-11

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 平成24年度根津神社祭礼会計報告 祭礼実行委員会

収 入		支 出	
協賛金	1,544,000	神社関係	162,000
町会助成金	500,000	お神酒所関係	66,900
鉢洗い会費他	54,000	協賛金関係	245,700
		設営関係	206,251
		神輿渡御関係	446,893
		八町会連合関係	15,120
		事務費	76,221
		飲食代	74,216
		子供半纏	346,025
		雑費	98,546
		鉢洗い会費	206,000
		祭礼積立金へ繰り入れ	154,128
合計	2,098,000		2,098,000

祭礼積立金残金 ¥1,147,656 (2012年10月15日現在)

## 町会活動の概要

平成24年6月から平成24年11月まで

- 6/7 ふれあい給食会
- 6/17 駒込警察母の会総会
- 6/17 向丘地区連合研修会
- 6/25 日医大建替工事協議会
- 7/4 根津神社つつじ祭り総会
- 7/17 日赤献血運動
- 7/23 根津神社つつじ苑草とり
- 7/28 地区対行事プール開放

## 編集後記

あけましておめでとございます。今年も町会活動へのご支援・ご協力をよろしくお願い致します。2月24日日曜日おしるこの会を開催します。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

編集委員 本城康至 坂本禎一

大熊敏幸 猪熊良一

- 8/17 駒込警察振り込め詐欺撲滅キャンペーン
- 8/26 防災訓練演習
- 9/1 敬老てんぷら会
- 9/5 駒込母の会推進委員会
- 9/16 根津神社神社礼大祭
- 9/22 「お寺のよこ」運営協議会
- 9/24 名簿作成委員会
- 9/26 防災計画修正区民説明会
- 9/27 防犯協会 全体会議
- 9/29 駒本小学校 道徳授業地区公開講座
- 10/9 防犯部「文京地域安全の集い」
- 10/15 振り込めサギ防止キャンペーン
- 10/15 くすの木 洗濯たたみ
- 10/15 赤い羽共同募金
- 10/21 ふれあい向丘連合まつり運動会
- 11/15 振り込めサギ防止キャンペーン
- 11/16 リサイクルバスツアー「古紙再生工場見学」
- 11/21 駒込警察母の会 バスツアー